

3 校務DX計画

(1) 校務DXを推進する上での現状と課題

「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、現状において令和3年度末から導入している統合型校務支援システムの積極的な活用が進み、出席簿や通知表、健康診断の結果通知の帳票印刷や校務支援メールの活用等、業務の効率化が図られている。名簿入力においては、教育委員会で把握している情報をCSVデータで各学校に送付することで、不必要な手入力作業を削減することにつながっている。

また、整備しているMicrosoft Teamsも有効活用されており、授業の配信はもちろん、オンラインでの相互授業参観や協議会にも利用されている。

一方でFAXでの調査、連絡が依然として行われていたり、会議資料を紙で印刷したりと、改善を要するものもある。今後も、研修を進めるとともに、市内のICT利活用推進委員と協力しながら利活用促進に努めていく。

(2) 校務DXを推進するための課題解決策

押印を廃止するために必要な規則や規程の改正を進めている。また、校内における業務のペーパーレス化を進めるために校務支援システムの活用を促進している。

教育委員会から学校現場への調査についても、メールやクラウド上でのアンケート回答を有効活用していく必要がある。

(3) 校務DXの今後の計画

・ クラウドサービス活用の充実

Microsoft Teamsの活用を進めるとともに、今後導入予定のchromebook活用に向けて、Google for Educationの活用についても実践事例の周知や教職員に対する研修を用意していく必要がある。

・ 校務系・学習系のネットワークを統合し、ゼロトラストを実現するための環境整備や予算確保、職員への研修等について協議・検討を進めていきたい。